



AICHI SANGYO UNIVERSITY

Real

Symbolic

卒業研究作品選集 2008

愛知産業大学 通信教育部 建築学科

建築学科の方針 —— 学術、技術、芸術を集結した建築の総合教育

本科は、工学系、美術系の枠にとらわれず21世紀の建築界のニーズに応えられる建築家や建築の知識を持ったキーパーソンの育成を図っています。

常に空間を意識した建築造形の能力や、社会の要請に的確にこたえる設計手法や理念を養うために、工学・美術・芸術・社会科学や一般教養までがバランスよく構成された、豊富なカリキュラムを用意しています。

また、社会人が通信教育で効果的に建築について学べるよう、各科目のテキスト、学習指導書やスクーリングの内容にも工夫を凝らしています。

豊かな文化性と社会性を兼ね備え、総合的な建築視野でこれからの社会を考えられる教育の場を提供します。

建築造形、建築設計、CAD、構造・力学の演習科目を中心として、建築の各専門分野から幅広く修得します。さらに大学教育の集大成として、卒業研究に取り組み、造形デザインにおける建築・都市の可能性を追求します。



守屋 弓男 教授

建築学科の特色 —— 実践的な教育

美しく、人に喜ばれる建築、街並みを作りたい。



建物に住む人、その街に暮らす人、そして訪れる人が喜びを感じられる、そんな建築ができたら社会的意義は大きいと思いませんか。ファッションが機能性、美的センスを重要視するとおり、建築や街並みも環境に調和した機能や美しさ(デザイン)が求められます。単に雨、風がしのげるだけ

ではいけません。自己満足でも困ります。21世紀の日本は、美しい未来を予感させ、何かワクワクするような建築や街並みが求められています。皆さんも、その一翼を担う建築家や設計のプロフェッショナルを目指してみませんか。

社会で活躍できる人材の養成



忙しい時間を割いて学ぶ皆さんにとって、その貴重な学習時間が、今後の仕事や日常生活に結びつけられれば言うことがありません。通信教育部建築学科はまさにそこにねらいをおき、社会

人を対象とした受講しやすい教育システムを構築しています。

教育内容は短期間(3日間)のスクーリングや通信科目でできるだけ多くの建築知識・技術が得られるよう、課題作品やレポート課題に工夫をこらしています。スクーリングでは、より高いレベルの集中講義、演習を行うため、現役で活躍する建築家や各建築専門分野の教員が授業を行います。さらに造形学部の特徴を活かし、工学や芸術の枠にとられない、創造的な視点で建築を考えられる人材の育成を目指しています。

建築士の資格を視野に入れて



建築業界で働こうとする人が建築士の資格を必要とするのは言うまでもありません。ある先生の話しですが、「力士がまわしをつけるのと一緒で、建築業界で頑張るのだったら、まずはまわし(建築士資格)をつける必要がありますね。」とおっしゃっていました。建築士の資格取得は、本学科の目標の一つですが、とても重要なポイントに位置づけています。卒業後には、二級建築士の受験資格が得られます。また実務経験2年を経て一級にもチャレンジ可能です。二級建築士の受験対策では卒業後に無料の学習相談会やWEB質問掲示板でサポートしています。さらに2007年度からは大手資格学校(日建学院)と提携し、学科講座をアカデミック価格で提供しバックアップしています。

[*建築士法改正により指定された科目の履修が要件になる予定です。]

サテライト教室(東京・名古屋)やネット学習環境の整備にも力を



通信教育で学ばれる方は、在住地を問わず、各地から学びに来られます。場所を問わないことは通信教育の魅力の一つですが、本学ではスクーリング受講の利便性を考え、サテライト教室の運営に力を入れています。現在、サテライト教室を東京・名古屋におき、遠方の学生がより受講しやすい態勢をとっています。また大阪にお

いても提携の専門学校の協力を得て、多くのスクーリングを開催しています。東京サテライトでは建築学科で卒業に必要なスクーリング(面接授業)全てを開講しています。また愛知県では、本学(岡崎)はもちろんのこと、名古屋の副都心、金山の名古屋サテライト(金山総合駅前)で大半のスクーリングを開講しています。サテライト教室では、さらにスクーリング以外でオープン教室を定期的に行い、学習サポートを行っています。

その他、インターネットを活用し、WEB掲示板やブログの情報提供で積極的に学習環境の整備を図っています。

はじめに

平素より愛知産業大学には格別のご厚情を賜り、謹んで御礼申し上げます。

さてこのたび、以前より開講している建築デザインコースの学生と合わせ、卒業研究総数 91 点の中から選ばれた優秀な作品 17 点を「卒業研究優秀作品選集」としてまとめました。社会人を初め様々なバックグラウンドを持つ通信教育部の学生らしい意欲的な作品が集まりました。本学のあります愛知県では通学部と合同で毎年行なっております卒業研究展を、加えて一昨年度より東京でも開催いたしました。そしてそれぞれの会場へ出展しましたものを冊子にまとめた「卒業研究優秀作品集」を昨年度より刊行いたしました。

今後とも、優れたデザインを生み出せる卒業生の輩出を目指して一層の努力を続けていきたいと考えております。引き続き、ご指導ご助力いただきますようお願い申し上げます。

愛知産業大学 通信教育部

造形学部 建築学科主任 守屋 弓男

2008年度 卒業研究受講生の現住所分布図



2008年度 卒業研究の分析とトレンド

※コンセプトの文章に対しキーワード重要度計算プログラムを適用し、その出力結果に固有名詞等の除去などのクレンジング処理を行った。
 ※()内の順位は2007年度の分析結果におけるものを示した。(ー)は2007年度の分析結果にはなかったものである。

コンセプトの分析によるトレンド

1 位	(20位)	空 間
2 位	(2 位)	施 設
3 位	(ー)	人
4 位	(86位)	都 市
5 位	(ー)	生 活
6 位	(33位)	地 域
7 位	(44位)	日 本
8 位	(45位)	場
9 位	(26位)	環 境
10位	(39位)	街

コメントの分析によるトレンド

1 位	(56位)	人 々
2 位	(14位)	街
3 位	(4 位)	建 築 空 間
4 位	(25位)	人
5 位	(8 位)	空 間
6 位	(ー)	空 間 性
7 位	(ー)	研 究
8 位	(1 位)	都 市
9 位	(3 位)	施 設
10位	(ー)	世 界 観

2008 年度 卒業研究 全リストと選出作品目次

選出作品	タイトル	氏名	掲載頁
●	常盤台住宅物語 2050 常盤台地区の保存と発展	荒井 由美	4,5
●	覚醒ボディワールド	白比野 圭祐	6,7
●	はなれみ 観望建築の進化形	田中 奈々子	8,9
	超高層ビル街のオフィスビルの設計 ~Egg Style~	秋澤 穂	
	「飛ぶ」をテーマにした施設をつくる	秋山 美恵子	
	エコ技術展示館	阿野 幸紀	
	Life In Cellular Frames ~ジャングルジムで広がる空間~	新井 光	
	都市の住まいと田舎の住まい		
	段々畑の集合住宅	池田 法子	
	あるく	石崎 敦正	
	+plus やまのせいかつ		
	航空保安大学校跡地再開発計画 ~羽田発未来へ~	伊東 健太郎	
	蘇る山頂の展望台	伊藤 直志	
	新中津川市京場基本計画 星々見京場 ~里山での火葬儀式の場~	伊藤 浩	
	空気を包む	伊藤 美苗	
●	きおくを重ねる通り抜け 鹿嶋跡地の GONNOSHIMA (近ノ島) 集合住宅	井上 敦	10
●	イエの学校~繋がりから生まれる職人文化の再生	岩井 厚憲	11
	日本から世界のHUBへ 銀座に Roundabout と画廊の Gallery of Gallery が出現	岩田 一	
	馬との生活を軸とした村落		
	「理 (ことわり) の字びき (まなびや)」 ~地域のための教育施設の研究~	大杉 真志	
●	子ども達の希望 エデュテインメントタウンノース ~社会を生き抜く力を育てる~	大宮 典江	12
	ティアハイム坂東プロジェクト	大村 博美	
●	隠れた秩序と自由 ~未来へ繋ぐ (川崎駅東口への提案)	岡 友明	13
	都市の中のスーパースポーツ公園	小尾 正子	
●	tokyo tower + α ~アートの交差点~	河西 真実	14
	地中建築による危機遺産の保存・修復・研究のための施設	金子 美紀	
	中山道 除陽論的まちづくり	金塚 義和	
	おりなす駅	神山 綾	
	既存の形に住む	河出 清光	
	ガラス・光の教会	川村 成一	
	コミュニティー再生に寄与する建築	岸 明宏	
	地域基幹総合病院ユニット ~建築の力による現代医療問題の解決~		
	憩いの場としての図書館を		
	ゆるみを感じる憩いの場 ~旧北陸街道の休憩所~	越田 郁恵	
	集合住宅	児玉 卓	
	集合住宅	小林 政幸	
	Sky Oasis ~浜松市松葉跡地を立体公園にする~	坂本 浩樹	
	ヒガシヘニシヘ ~商店街を横断する~		
	アクアコンプレックス		
	かざぐるまの館 ~仲間と自然と地域と、仲良くなる暮らし~	佐野 千春	
	はまぐ・こう・えん	柴田 博和	
●	カンカクノツキジ	島崎 永基	15
	音楽に身を捧げる 音楽家のための集合住宅 音の住処+ Hill's Hall	鈴木 恭子	
	風景と地域活性の間		
	あたりまえからの感動 ~繋がりほすなわち~	鈴村 浩伸	
●	天に届く白馬の庭 ~白馬五電スキー場 レストハウス&ゴンドラ駅改修工事~	組手 俊郎	16
	逆 catenary 曲線からなる建築構造に関する研究	高橋 勉	
	コミュニティタウンアパートメント ~ふれあい、対話のある街~	高柳 昌弘	
	大衆動線計画	田中 修身	
	人の留まる (とどまる) 国分寺	谷口 利広	
	佐原アークホテル	玉井 正尚	
	きらきら木漏れ日 ~多摩ニュータウンに高齢者がいざい生活するための施設を設計する~	千田 純子	
	姫路駅北口再開発	出永 美樹	
	生涯学習センター	飛塚 正文	
	人・もの・情報が循環する駅 ~現代版「橋のたもと」		
	はぐたちをつなぐもの ふるさと再生~町役場と里山公園	中西 加代子	
	観光地を進化させる高原の美術館 ~体験型 那須高原美術館~	中根 靖章	
	「日本らしさを残した地方都市発展の手法」	中村 英史	
	「ストック団地のゆるやかな建替を考える」 ~ひばりが丘団地再生として~	中村 浩巳	
	CARRE DE RIVE		
	On The Road		
	LDK 解体+情報通信技術が可能にする都市型新住空間	西村 安由	
	大都市の再生における環境装置としての建築の役割	野上 陽子	
	沖縄海中水族園	羽毛田 裕司	
	菩提の湯	橋崎 光太郎	
	ひだまりの共生 ~廻る回廊~	長谷部 朋美	
●	Simbiouse cruz-cultural 国際団地発見	畠山 博敏	17
	七沢温泉郷	畠山 真紀	
	Kids + Water Park	八高 美歩	
	MO-YA ~すきまをもうや (共同所有) する~	花田 佳織	
	SQUAREHOUSE		
●	複合施設「WHITE SHIP」の設計 ~新しい高速道路サービス施設の提案~	藤田 正樹	18
●	FOLLIES 史跡の石をまもり、活かすギャラリー	星 かおり	19
	「消費で感じる」 コドモを甘やかさない小学校	細田 晴輝	
	「小石川植物園の中にある緑の大学院」 ~環境と研究の共生~	牧野 吉克	
	生活意識から離れてしまった水源の復活		
●	Life Sharing...「生きる」をつなぐ小さな世界	松原 明子	20
●	あの丘へ登ろう	水谷 匡	21
	つながる+ River Side Amusement	三宅 絵里	
	GREEN SHELF NETWORK	村田 美緒	
	“しがらみ”を生み出す集合住宅 一家族力・地域力を取り戻すところみー	最上 郁子	
	日本のアニメ文化	森 香奈子	
	「sakuho port」 ~別荘地への着地点~	八十田 ユリ	
	天使が憩う森 ~子供のためのホスピス~	山口 明美	
●	HAPTIC cell	山田 浩子	22
●	世代間の絆を生む家	山田 真希	23
	茶業ビタミン業 仮想医薬品の製造体験をしよう ~東静岡駅前 医薬品製造体験施設 建築計画~	山田 道明	
	数世代先にも受け継がれるストック型集合住宅	大和 秀幸	
	路 g - in	山本 由美子	
	駅 人々の触れ合う空間を目指して	米倉 潤仁	
	“Birth Villa” 地域に根ざした産婦人科	若林 有紀子	

総数 91点

※氏名空欄は本人希望により非掲載

model



work panel



concept

常盤台地区は、昭和11年東武鉄道によって開発された郊外都市である。1800年代の後半頃から欧米で盛んに論じられていた「田園都市」の考え方をもとに民間宅地開発と都市計画行政の協力で生まれた唯一の住宅地である。

開発から既に70余年が経ち時代は様変わりしている中、今なお優良住宅地として名を馳せる「常盤台」であるが、世代交代に伴う住民意識の変容と多様化の波にのまれ、その形を変え始めている。

本計画は常盤台地区を保存し発展させる為、良好な住宅地を形成するに至った最大の要素「街路計画」と、東武鉄道が購入者に対して申し入れた「建築規約（任意の紳士協定）」を足がかりに、歴史を継承しながらも全く新しい常盤台地区の形を提示したものである。

comment

都市問題を実に上手に扱った作品である。地域の歴史性・都市構造・環境を詳細に分析した上で、その延長線上に更なる価値観を付加して、近未来像を提示している。大胆なプログラムは、コンテキストを大切に扱っているからこそ説得力を持つ。こうしてできた都市のフレームの中に、肌理細やかなデザインを細部にまで施し、新しい街に展開される暮らしを具体的にイメージさせている。

(担当教員：久原 裕)

Yumi Arai

荒井 由美

東京都在住

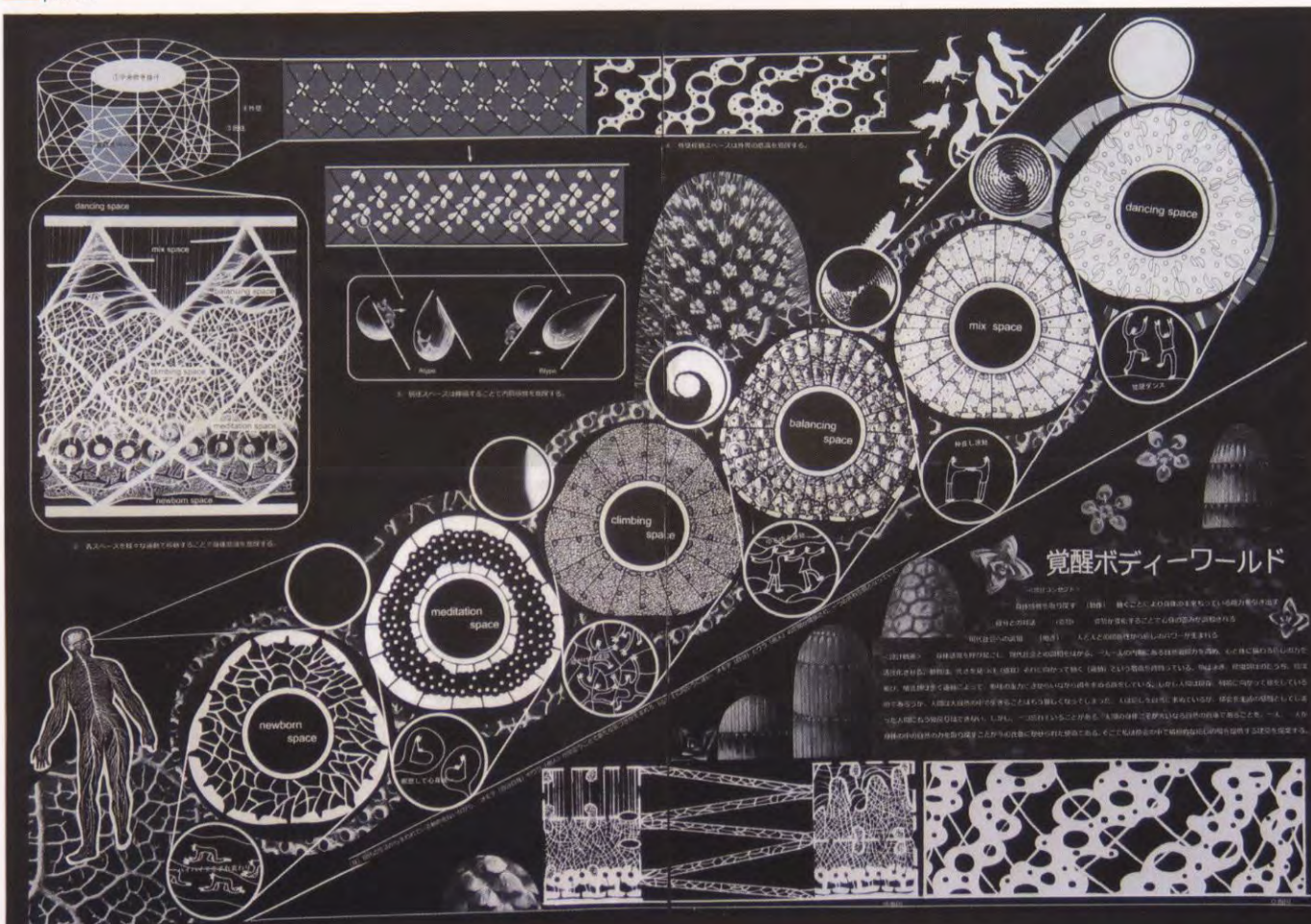


CADオペレーターをしながら得る建築知識は断片的で偏りを生じていました。これまでの知識も活かしつつ体系的に建築を学びたいと思ったのが入学のきっかけです。

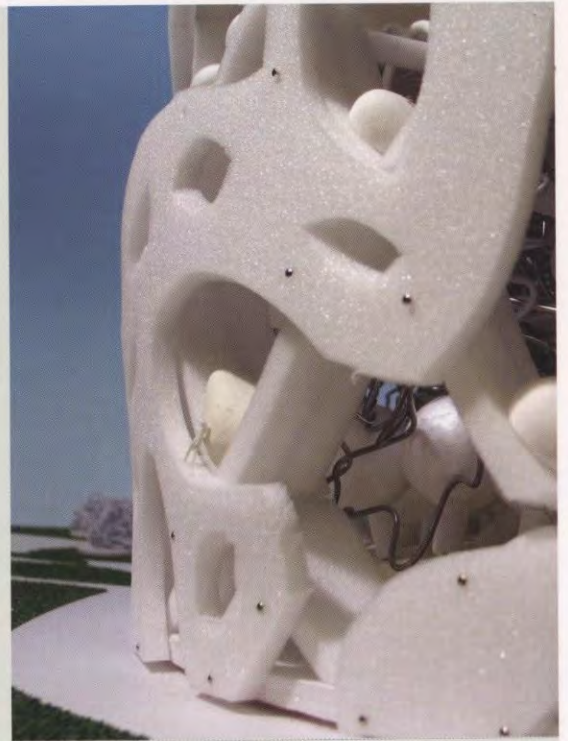
入学してまず、自分が建築をいかに平面でしか捉えられていなかったことに気づかされ、目が覚める思いでした。大学では建築が持つ本来の魅力を教えていただきました。と同時に課題や卒業設計を通して、構想を形にすべく徹底的に取り組み、なおかつそのもう一歩上を目指す辛さと楽しさを知ることができました。まだまだ建築については学びきれないとも感じます。

今後も常に前を向いて一歩ずつ良い建築経験を積み重ねていけたらと思います。

panel



model



concept

身体感覚を呼び起こし、現代社会との調和をはかる。一人一人の内側にある自然治癒力を高め、心と体に備わる癒しの力を活性化させる

動物は、えさを見つけ（感覚）、それに向かって動く（運動）という宿命を背負っている。魚は泳ぎ、爬虫類はのたうち、鳥は飛び、哺乳類は歩く運動によって、地球の重力にさからいながら餌を求める旅をしている。しかし、人間は現在、何処に向かって旅をしているのだろうか。

人間は大自然の中で生きることはもう難しくなってしまった。人は癒しを自然に求めているが、都会を生活の基盤としてしまった人間にもう後戻りはできない。しかし、一つ忘れていることがある、人間の身体こそが大きい自然の倉庫であることを。一人、一人が身体の中の自然の力を取り戻すことが今の社会にかけられた使命である。そこで私は都会の中で積極的な癒しの場を提供する建築を提案する。

comment

人間の肉体にやどる潜在的な治癒力を回復し自らの健康を取り戻すべく、建築によって肉体へ刺激を与え覚醒させる計画である。この研究の特徴はその独特の世界観であり、具体的な建築に留まらない豊かなイメージを人々に喚起させるところにある。曼荼羅図や古地図などは宗教的、地域的、思想的な世界観を反映し製作されている画像であり、これもまた建築だと言ってよいとするならば、一見、荒唐無稽に見えるこの研究もまた独自の世界観を示した見事な建築であるといえよう。

（担当教員：丹羽 哲矢）

Keisuke Hibino



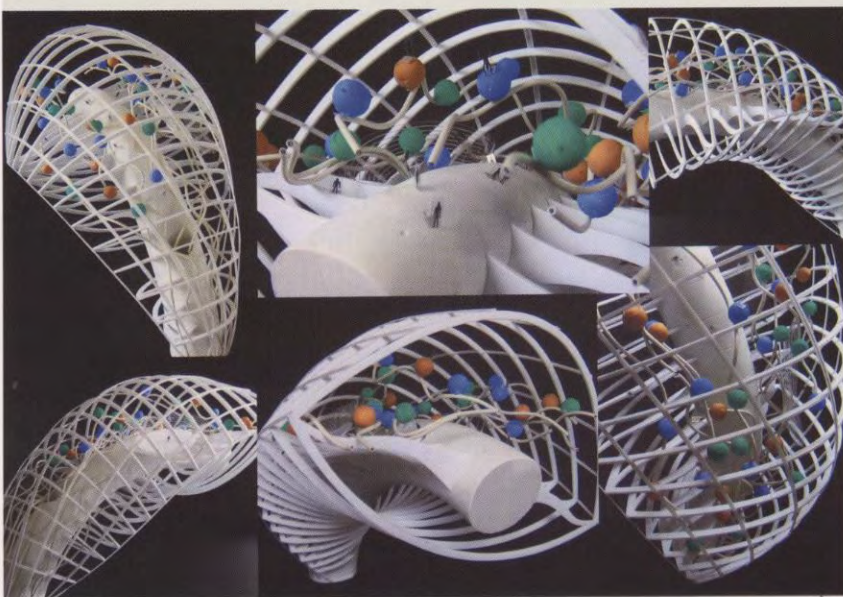
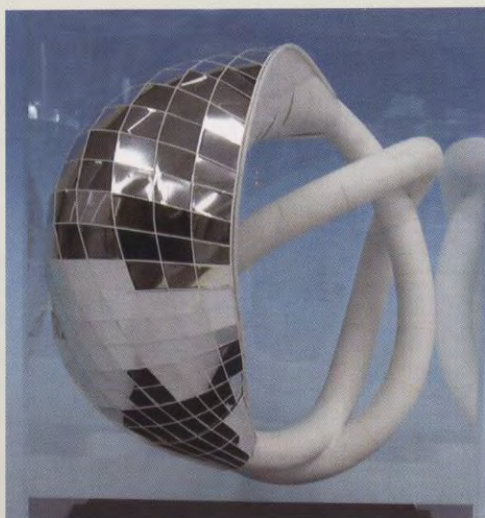
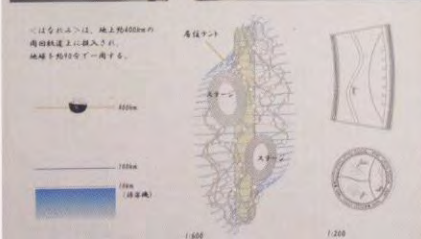
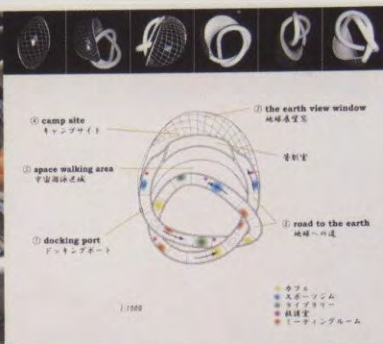
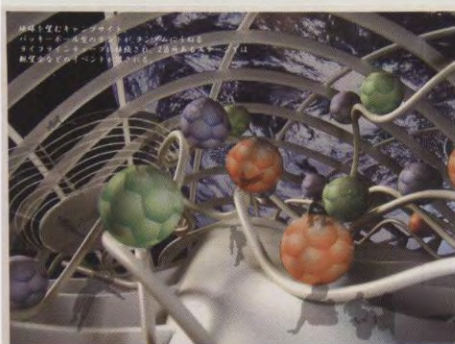
日比野 圭祐

愛知県在住

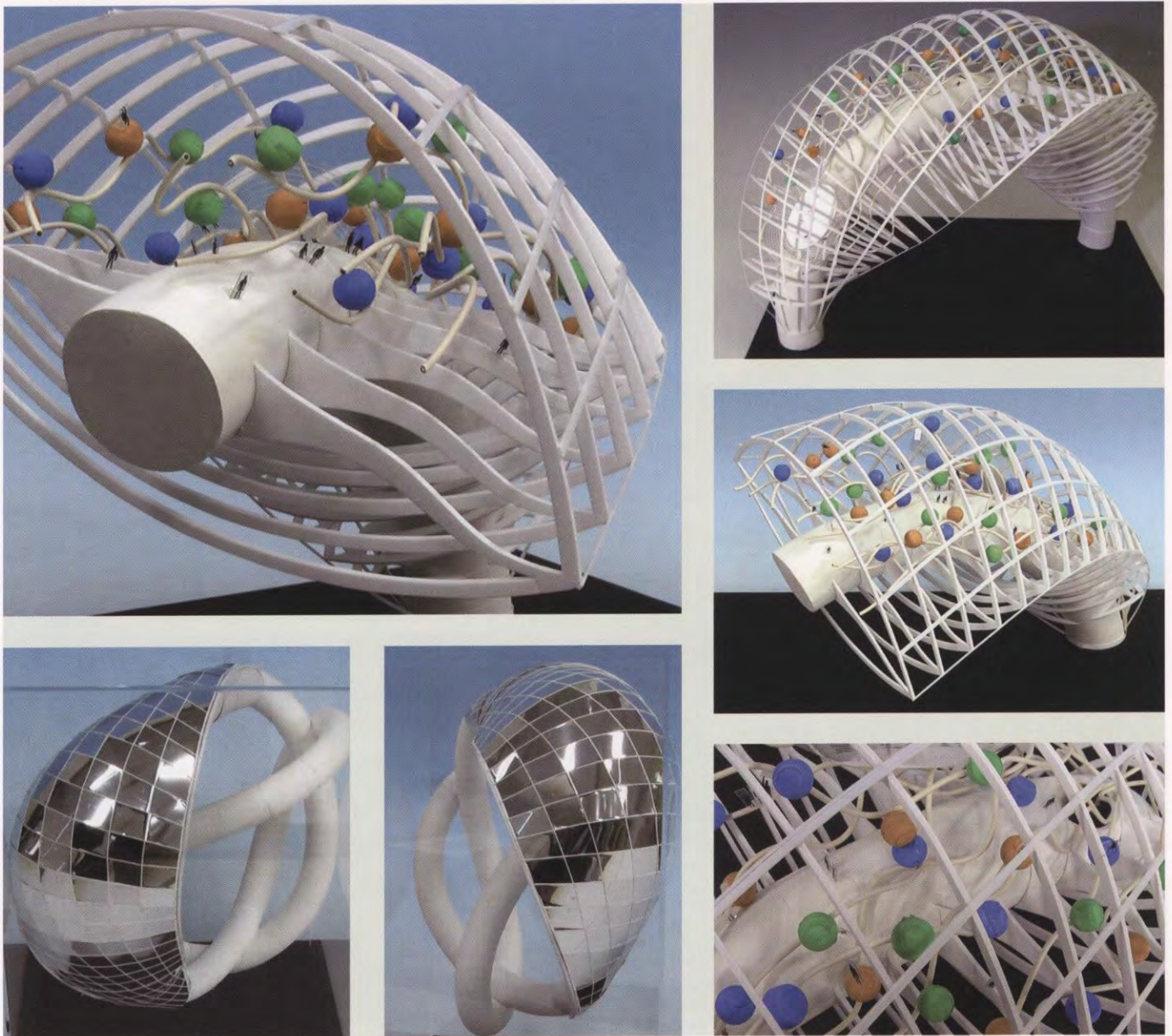
現在の仕事をしていると知識に偏りができてしまうことを思う日々の中、以前よりあった建築への興味を思い出しました。そこで働きながら勉強できるこの学校の編入学を決めました。学ぶうち、建築の世界を垣間見ることでその奥深さに感動していきました。今後の目標は、学校で学んだことを生かしながら、新たな視点をもって色々なことに挑戦していきたいと思っています。

model

觀望建築の進化形

[illegible]

model



concept

目の前にひろがる景色に感動し、ときには人生が変わりさえする。雄大な自然の風景は太古から、人間の好奇心を刺激し、未知の世界へ駆り立て、歴史の地平を開かせてきた。

〈はなれみ〉は、地上約400kmの低軌道に投入される、地球を観望するための建築である。観望が主体であるならば、そこでの生活はシンプルな方がいい。よって、付帯機能は「キャンプ」とした。無重力空間でキャンプをしながら、地球を観望する。キャンプ地には、二重ループの「地球への道」を通らないとたどりつけない。「地球への道」は、宇宙生活に体を慣らすための機能であると同時に、「巡礼」のメタファーでもある。

comment

宇宙建築を卒研のテーマにすることは、まだ、珍しいであろう。それは体験することが叶わず、データも少なく、想像の域を出ない。その様な曖昧な条件にもかかわらず、精緻で楽しい宇宙建築空間が創り出された。表現力も優れ、今世紀後半には実現することを予感させる。無重力空間での行動や生活を考察することで、逆に地球上での建築空間をデザインする上で、新しい視点から発想できる有効な手法であることを気付かされる秀作である。

(担当教員：守屋 弓男)

Nanako Tanaka

田中 奈々子

東京都在住



デザイン関係の仕事についていますが、以前から建築を見たり、講演会を聴きにいったりするのが好きでした。いつか「見る」だけでなく、「わかる」人になりたいと思うようになり、入学しました。

学んでみて感じたことは、「あなたのために必要なものを創造する」という点では、建築も他のものも変わらないということ。対象は somebody ではなく、you なのです。

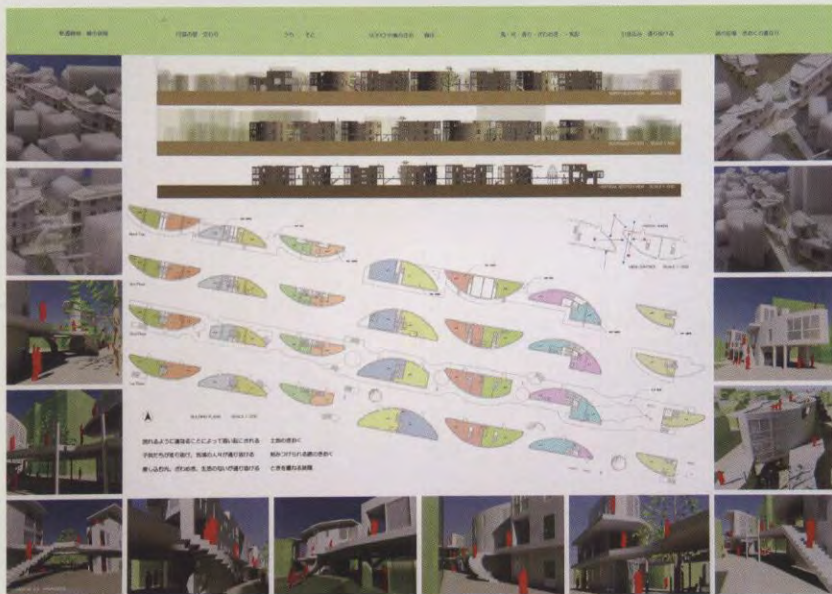
今後は、コンペなどに作品を応募してみたいと思っています。

model & work panel



き お く を 重 ね る 通 り 抜 け

廃線跡地の GONNOSHIMA (近ノ島) 集合住宅



concept

かつて移動手段として活気をもたらし、主要交通機関であった鉄道路線は、廃線となった後も放置されている。

語る人もなくなったきおくを辿れば、人々の往来が埋もれていた。今、鉄路のきおくも消え去り、都市に埋没し消え去ろうとしている。路は人々の活動の証を刻み、街並み 風土を、かたち創っていた。高層化、整然とした街並みがはたして豊かさをもたらすのか。なぜだか知らないけれども、ゆがんだり・すれたりした土地のきおくの痕跡。妙だけど懐かしく語りかけてくる。軌道跡地に居住し、人々を呼び込み、通り抜けていく。敷地の縛りを外し、そとに開くのではなく重ねる。SOHO による職住が、柔らかな見守りの視線を生み出し流れる円弧の壁面は、風・光・ざわめき・香りが通り抜け、新たなきおくを重ね刻みつけていく。周辺の戸建住宅が建て替えを迎えたとき 集住のありかたの新たなきおかけとなりやがて拡がり伸びていかないだろうか

comment

鉄道廃線跡地という細長いユニークな敷地に「記憶」をテーマにした集合住宅の提案である。延々と連なる住宅はかつての路の記憶と、年月を重ねて新たな建築空間に記憶を刻みつけていく。共用部分を外部に解放し、路地的空間を作り出すことで、単なる集合住宅の枠を超え、人々の賑わいや、交流の場を形成される事を意図した広がりのある作品。

(担当教員：木下 太)

Atushi Inoue

井上 敦

岐阜県在住



通信で建築課程を編入することができるのを知り、資格取得の最短距離を求めていたはずが、大学以外の事情により在籍延期を2度重ねました。

在学中は、建築も含め様々なことを考え、自問自答し続けることとなり、卒業研究も一進一退迷いながらもなんとか滑り込んだ感じでした。こうして何らかの成果を残せたことは、驚きであり、大きな喜びとなりましたが、ようやくスタートラインに着いたのではないかと実感しています。

イエの学校 — 繋がりから生まれる職人文化の再生 —

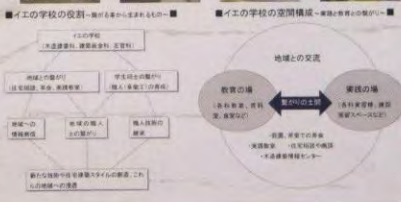
model & work panel



イエの学校 — 繋がりから生まれる職人文化の再生 —

CONCEPT

「家を建てる」となるハウスメーカーが主流になったいま、失われつつある職人の技術や文化、地域密着のイエ造りを取り戻し、次の世代に継承すると共に新たなイエのあるべき姿を創造する事を目的とした施設「イエの学校」の建設を、「繋がり」をキーワードにして計画した。



concept

「家を建てる」となるハウスメーカーが主流になったいま、失われつつある職人の技術や文化、地域密着のイエ造りを取り戻し、次の世代に継承すると共に新たなイエのあるべき姿を創造する事を目的とした施設「イエの学校」の建設を、「繋がり」をキーワードにして計画した。

日本の伝統的住宅を、土間や縁側に見られるように内と外、人と人との曖昧に繋ぐ空間構成を特徴としてきた。「イエの学校」ではその空間の特徴を取り入れ、地域との繋がり、学生同士の繋がり、地域の職人との繋がりを生み出す事を学校の一つの主な役割としている。また、職人の技術を継承するため、教育の場（各科教室、資料室、食堂）と実践の場（各科実習棟、建設実習場）を土間を想わせる空間（繋がり土間）によって繋ぐことで、教育と実践の融合した職人育成施設の機能を持たせた。

他には地域との交流の場として茶室や木造建築情報センターを設けている。それぞれの空間が個別の役割を持ちながらも、繋がり合う事で、「イエの学校」は職人文化の再生と新たなイエの価値をうみだす。

comment

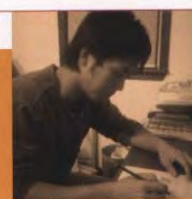
—自分の仕事とオーバーラップさせて— 岩井さんの作品は通信教育の建築学科ならではのものと言える。彼は木工見習いとして仕事をする中で、伝統工法の衰退に対し危機感を抱き、大学で学ぶことで自分なりに解答を見出そうとしていた。卒業設計にあたり、「伝統工法の各職が共同して学び合い力を合わせることで何かが生まれるのではないか」という仮説を立て、それを設計作業のなかで検証しようとしている。技術的展開や表現技法はかならずしも十分とはいえないが、「建築に対する思い」が作品づくりの強いドライバーとなっていることがよくわかる作品になっている。最大の成果は卒業設計のプロセスを通じ、作者自身がなにかを掴み大きく成長したこともかもしれない。

(担当教員：宮武 仁)

Atsunori Iwai

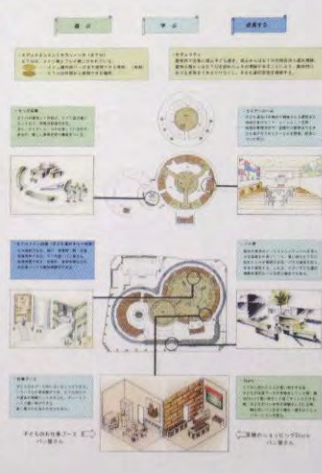
岩井 厚憲

愛知県在住



地元の工務店にて大工の修業中です。建築の仕事に携わって日々思うことは、辺りを見渡すとどこもかしこも似たり寄ったりの新建材の寄せ集めのような住宅ばかりという事です。そんな中、大工として独立して、もっと住生活を豊かにできる住宅を造りたいと思い大学にて建築を学ぼうと思いました。現在、愛知産業大学にて共に学んだ友人と、住宅の建設を進行させているのですが、宮武先生はじめ、先生方に学んだ事を駆使して、すばらしい作品に仕上げようと日々、苦悩している毎日です。

model & work panel



concept

さいたま市北区は、鉄道・道路など交通の利便性の高い地域である。北区の中にある北部拠点宮原地区は複合市街地の整備推進地区で、計画地はその一画にある。子どもを取り巻く環境は変化しており、学校ではいじめや不登校、社会ではフリーター・ニートが増加、これらが社会問題化している。北区では犯罪も多く、子どもが自由に外で遊べないなど過ごし方が問題となっている。このような社会環境は小さいときからのコミュニケーション不足が原因の1つと考えられる。よって、コミュニケーションの取れる環境づくりが望まれる。本計画では、そんな場所を意図的・計画的につくり、地域産業の発展とともに、子どもが安心して遊び・学び・成長する場所、安全で快適な子どものための施設を提案する。

comment

子どものための施設はこのようなものでありたい、という意味が造形として強く表現されている。これを裏打ちしているのは入念なスタディ。良く練られたプログラムが美しい平面計画にまとめ上げられており、適正なボリュームとスケール感の詳細な検討がリアリティを高めている。手の跡を感じさせる優しいプレゼンテーションが、作品の雰囲気良く伝えている。(担当教員：久原 裕)

Norie Omiya

大宮 典江

埼玉県在住



大学の卒業を目指すなら、仕事としていたインテリアコーディネーターに関連する建築を勉強したいと思い探していたところ、愛産大に出会いました。

住宅よりもっと広い意味での建築を学ぶことに喜びを感じていましたが、家庭の事情で主婦に。家庭と向き合い、建築と向き合い、卒業研究を通し設計とは、テーマ、コンセプト、プログラムはどうあるべきかなどを考える過程が大切なのだと実感しました。まだまだ学ぶことがたくさんありますが、卒業後また仕事に就くことがあれば、以前とはまた違う見方で建築と接することができるような気がします。卒業にあたり、支えてくれた家族に感謝したいと思います。

model & work panel



concept

・人と人の関係に変化を起こす空間造り

JR川崎駅東口地区では、風俗・ギャンブル・飲み屋街などの多い如何わしいと言われる地域でありながらも多種多様な人々を惹きつけ個々の都合や利害を原動力に壊されては造られてきた。例えば何の設備も無い通路の脇では毎夜のように路上ライブが行われる。想定された機能とは外れた行為が多く発生し人と人との間に新たな関係を作り出している。

そうした混沌とした街の原理をそのまま肯定し用いて、個と個、地権者と外来者、既存と新規、その他多くのものがぶつかり合い変化する空間作りを仮設的方法によって提案する。これにより人と人の関係に変化を起こす空間が未来に渡って持続するのである。

・未来へ繋ぐ

新しい地平がそこに重なる事によって建築物のプログラムは劇的に変化するであろうと予測し、立面も内部もさらに自由な予測図としての一例となる建築物の概念を示した。

comment

戦後の経済と共に発展してきた街並みを、古い・汚い・非効率的などの理由から、大型都市開発により巨大な区画や建物が出現するのが昨今の手法ですが、対するよう昭和からの混沌とした人間味溢れる街の活力を「自由」を継承しながら発展できる「秩序」を提案するものです。都市とは完成するものではなく常に仮設のごとく現れては消え、さらには次への成長を人間のスケールで行えそうな、エネルギーがフォルムとなった作品です。

(担当教員：石崎 友久)

T o m o a k i O k a

岡 友明

神奈川県在住

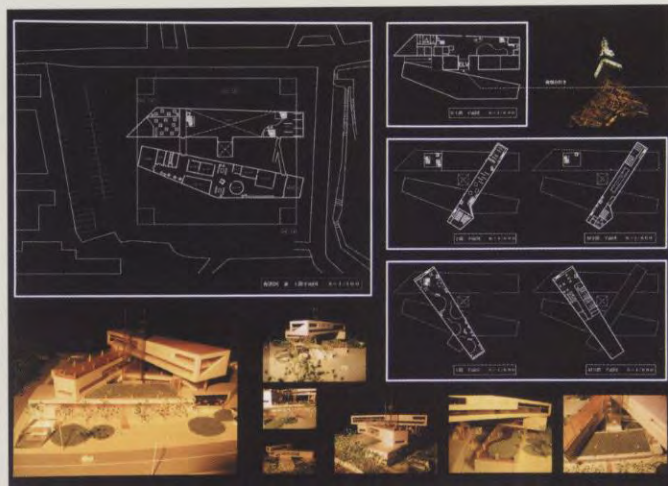
地球は丸いと誰もが知り、チーターは120km/hで走る事を誰も疑わない。でも、それを実際に見て確かめた人はほとんどいないでしょう。アフリカまで行かなくても街で何が起きていて、あの人がどうしてあの家を建てたのかが知っているようで何も知らない。だから建築を勉強してみたくなりました。

実際に勉強を始めてみるとこれまで自分が何もきちっと見たり考えたりしてはいなかったのだと感じます。例えば、「美しい」街や景観と言うものがあり、今住んでいるこの街はその反対だと思っていました。では、その「美しい」とは何だと言われと説明できません。今後その答えが出るかはわかりませんが、ASUでの2年間はそれを自らの足で歩いて確かめる未来へのガイドブックなのだろうと感じています。

model & work panel



tokyo tower + α ~アートの交差点~



concept

東京タワーは戦後の日本国民の誇り・自信の象徴であり、東京のシンボル・観光名所である。しかし、本来の役割は総合電波塔であることを忘れてはならない。現在、第2東京タワーが建設されており、世代交代の時期に来ている。2011年以降の状況は現在のところまだ明確にはなっていないが、東京タワーからテレビ局が放送施設の殆どを撤去した場合、電波塔としての主な役割は終わる。観光施設として残す場合は、観光客の減少や老朽化等の問題もあり、取り壊しも考えられる。そこで、東京タワーに建築としての新たな機能を付加することで、東京タワー再生計画を提案する。

comment

観光地としての東京タワーではなく、アートの発信源として新たな価値を見出そうとするこの作品は、アブストラクトに配置されたボリュームが、東京タワーのシンメトリーにマッチして興味深い。クロスするそれぞれのボリュームから生み出される VOID へのアイデアをより期待したかった。東京タワーを真下から見上げることができる、ルーフトラスは快適な空間となるだろう。

(担当教員：伊藤 潤一)

Mami Kasai

河西 真実

東京都在住



はじめは家具や雑貨に興味があり、インテリアの勉強をしていました。勉強していく中で、インテリアをやるにも建築がわかっていなくてできないと思ったのが建築の道に進むきっかけでした。

大学で学ぶにつれ、建築の奥深さを知り、常に空間を意識した設計というものにはじめは苦労しました。しかし、今はそれが少しわかるようになり、空間をつくるおもしろさを実感しています。仕事と勉強の両立は大変でしたが、この2年間はとても充実した日々を過ごせたと思っています。

卒業後は、まず二級建築士の資格取得を目指し、頑張りたいと思います。

model & work panel



concept

長年に渡り、日本の食文化を支えてきた築地市場、現在、流通品目の増加などで豊洲への移転が検討されている。

本当にそれだけで、食文化の基点を無くしてしまって良いのだろうか？

自分が築地で一番感じたことは生々しい息遣い、それを感じさせる感覚である。この感覚をキーワードに銀座からの文化軸、水辺空間との関係の改善、それらの緩和空間として食の散歩道を設けることで、様々な感覚の交差を創出したい。

また架構の連続から感覚、機能に同調した架構の変化を作りだし、建築として築地の感覚部を発信、吸収していくモノとしたいと考えた。

comment

本案で興味深いのは、まずそのダイナミックなスカイラインにある。屋根の凹凸はそこにあるアクティビティの強弱を表現しており、築地という東京の中で、異質な都市街区とアクティビティに着目し、その街区と文化を保存しながらも、内在するアクティビティの表出を試みている。築地を東京の新たなランドスケープとする意欲的な作品である。(担当教員：伊藤 潤一)

Eiki Shimazaki

島崎 永基

埼玉県在住



以前から建築に興味があり、学科は違ったのですが、建築の授業を履修し勉強していました。しかし、建築学科卒業ではない自分は二級建築士を受験するまでに7年という年月が掛かってしまうことを知り、働きながら自分のペースで建築を学べる、愛産大への入学を決めました。

今後も、愛産大で教わった建築の知識をさらに高めたいと考えており、大学院への進学を考えています。愛産大は明日への一番の近道でした！



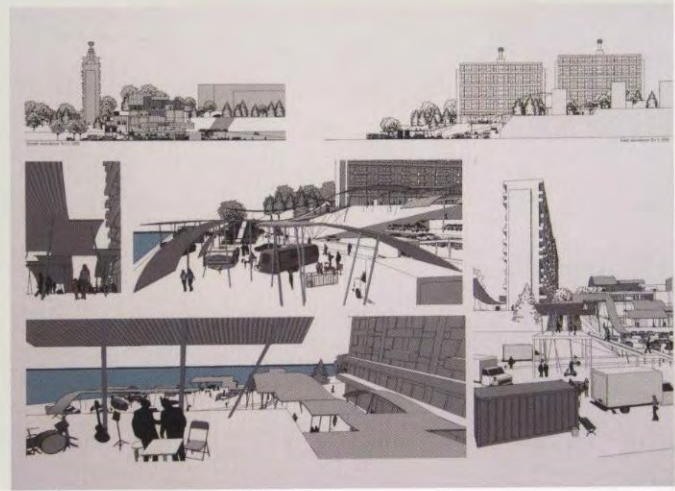
白馬五竜スキー場 レストハウス&ゴンドラ駅改修工事



(担当教員：白濱 力)



model & work panel



concept

企業城下町として知られる愛知県豊田市に、通称国際団地と呼ばれる保見団地はある。2009 年現在、外国人の住民数は約 4000 人を超え、団地内で占めるその割合は 45%を突破している。そのほとんどが、約 100 年前「笠戸丸」でブラジルに渡った日本人の子孫、日系ブラジル人にあたる。様々な問題を抱えているが、この状況をポジティブに捉え、異文化のポテンシャルを開放・発信し、混ざり合いの中で新たな文化が生まれるべきだと考える。日本の近未来はここにある。100 年の時をこえた原点「笠戸丸」は、再び新たな流れを生み出す。そして、「原点」はこの地のシンボルとなる。

comment

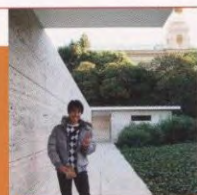
ブラジル人労働者が多く住み、日本人との摩擦やスラム化が進む愛知県保見団地。この場所に彼らの誇りと自信を取り戻し、真の交流をめざし建築としての解決を試みようとする作品。コルゲートの屋根は太平洋の大きな波を連想させる。この大きな波が既存の建物や人々を取り込み、人々の交流の場が生まれる。そしてその波はうねりとなり、現代社会に向け強いメッセージを発信している。

(担当教員：木下 太)

Hirotooshi Hatakeyama

畠山 博敏

愛知県在住



働きながら建築を学ぶことができるので、通信教育を選びました。通信教育でよかった点は、セルフコントロールの向上と、年齢・職業・目標が異なる様々な人生経験を積まれている方と、共に学ぶことができたことです。今までの自分とは違う考え方・生き方に影響を受けながら、相乗効果でブラッシュアップすることができたことに感謝しています。卒業後は学んだことを生かし、より質の高い仕事をしていきたいと思っています。現在は2級建築士取得のため勉強中です。

model & work panel



concept

ハイウェイオアシスに見られるような「走るだけの高速道路から多目的に楽しめる高速道路へ」という新しい道づくりの取り組みは、1998年の高速自動車国道法の改正や2005年の道路公団の民営化にも後押しされ、さらなる新たな可能性が模索されている。

そこで高速道路サービス施設と近隣地域や住民との密接な関係を築き、閉鎖的であった高速道路から「開かれた高速道路」への新たな取り組みとして、次に挙げるような機能を持たせた高速道路サービス複合施設を提案する。

- ・高速道路の要衝であるジャンクションに鉄道駅やバス停留所を併設し、交通結節点における多目的な交通手段の共存により、利用者の利便化を図る。・施設内に安全で広大なスペースを確保し、日常は公園・イベントスペースとして、災害時は近隣地域の広域避難所として機能する。
- ・複合施設内に屋上ヘリポートを有した病院を設置し、地域の中核病院としての機能すると共に、高速道路と直接接続することで高速道路上の事故や災害に迅速に対応する。
- ・地域観光・史跡の情報、自然に関するワークショップスペースを設けるほか、都立公園・国定公園へのトレッキング。

comment

人とモノ、情報の交差点というエネルギー密度の高い場所を商業至上主義的な安易な解決策に向かうことなく極限まで機能を集約させようとした意欲作である。地の利を活かしながら広域防災拠点として、また地域への貢献できる施設として。更に鉄道拠点としての発展性まで見据えて、残された自然に融和できる造形感を豊かな新たな施設の有り方のひとつとして提案してくれた。確かな情報の裏付けと緻密な設計力の高さも評価したい。

(担当教員：白濱 力)

Masaki Fujita

藤田 正樹

東京都在住



もの作りの仕事をしたいということで今の仕事に携わっているのですがデザインや芸術基礎を大学教育機関で学びたいという思いと建築デザインへのあこがれや高校時代に中途半端に学んだ建築について改めて学び直すには人生最後の機会的チャンスではないかと思い立ち愛知産業大学通信教育学部建築デザイン学科に入学し4年間学んできました。

卒業後は2級建築士の資格取得、そして命ある限り理想の建築というものを追求していきたいと思っています。

FOLLIES 史跡の石をまもり、活かすギャラリー

model & work panel



concept

和賀江嶋は日本最古の現存する築港遺跡であるがもはや堤防であったという嶋に港の面影はない。さらに、今も嶋の形は変化し続けているにもかかわらず、史跡の保護方針は現状維持となっている。

ところで、「FOLLY」は、「人が接触することによって何かを連想させ、新しい意味を生じさせるもの」であるが調査の過程において、鎌倉の海辺や石に「FOLLY」である一面を発見した。そこで、「FOLLY」であるアートを集めたギャラリーを建築することによる和賀江嶋の玉石の活用・保全を提案する。このギャラリーもまた、場所の記憶を連想させる「FOLLY」である。

comment

「石」をテーマとする美術館の計画地として、詩的意味性において、本地は最適といえるだろう。石を積み上げダブルスキンで覆った外壁から入り込み光と、海へ突き出したボリュームが内部空間の時間的変化による快適さを創造させる。一方で、裏山と美術館の関係性を処理しきれていない部分、海から美術館へのアプローチを更に積極的に提案しても良かった。

(担当教員：伊藤 潤一)

Kaori Hoshi

星 かおり

神奈川県在住

もっと自宅を快適にしたい、もっと造形の勉強をしたいと漠然と思っていたところに、ある建築を見てソクソクするような不思議な感覚をもったことが、建築を学ぼうと思ったきっかけでした。

何年も勉強から遠ざかっていたにもかかわらず、そのときの氣勢で入学してしまった大学の勉強には苦労しましたが、伊藤潤一先生はじめ、ご指導賜りました先生方、友人、家族 一 周りの人々に助けられ、こうして卒業研究・作品制作にたどり着くことが出来ました。

この場をお借りして御礼申し上げます。

今後は大学で学んだことを礎に、空間・造形について研鑽を積んでいきたいと思っています。

model & work panel



concept

生活物資や農作物、電気や給湯などのエネルギーを、「なるべく」自給して暮らしていこうという提案。そこでは、馬という動物と共に暮らすことで、生活の可能性を広げることができると考えた。世話をすることと、生きることが同義語であり、手間をかけることは、愛着が湧くことでもある。その過程をじっくり味わうことができるほど、情緒的に豊かであり、幸せである。一見非効率に見えるが、「地球環境をないがしろにしない人間」を育てる効率的な暮らし方だと考える。

同じ想いをもつ人たちが緩やかなコミュニティで一帯に住む時、必要とする建物の計画をした。馬の世話をし、心を通わず共同施設兼住居。サポーター的な存在で暮らす人たちの住居。コミュニティセンター的存在の作業棟。生活排水で汚れた湖を眺望し、改善の志を新たにす自戒と先祖との会話の塔。

これらは、風土の力である素材を使い、なるべく手仕事で、作り上げる。規格外のいびつな形が生まれることもあるが、手伝った子どもたちの手跡が残っていたり、あるいは、手直しが必要で、変化し続けることにもなりうるが、愛しいものと変化する。「老若男女、命あるものたちすべて、それぞれの個性が財産であり、大切にされる社会」に近づくためのひとつの小さな世界である。

comment

一手描きの魅力— CAD で容易に作図やプレゼンテーションが出来る時代になって、卒業設計作品も CAD で制作されるものを多く見かけるようになって来ている。そのことは反面個々の作品に強烈な個性が感じられにくくなることを生じさせているかもしれない。そんな風潮のなかで松原さんの作品は「手描きの魅力」に溢れている。それは単に絵がうまいだけではなく、CAD にくらべて手間のかかる手描きで制作することで、「便利優先」がすべてのような世の中への反問をなげかけていると言える。そしてそれは作品の主題である「スローな暮らしの試み」とシンクロし、作品の魅力を高めている。

(担当教員：宮武 仁)

Akiko Matubara

松原 明子

愛知県在住



建築家の存在意義など、理解できなかったことに惹かれ？また、子育て後の半生の仕事を見定めるために、ASU で学ぶことを選びました。学ぶたび、先人方の想いや、その背景に触れ、胸が熱くなる体験をしました。四〇代だからこそ受け止められたのかもかもしれません。自分で決めた提出期限に沿って右往左往し、勉強空間を次々と変化させ、課題に取り組みました。なんとも生きている心地のするスリリングな時間でした。

建築物は、色あせ、姿を消してしまう物がありますが、元の姿は、見えない「実体」として、私たちの体に入り込み、着実に影響しているのではないかと思います。それを自ら取捨選択できないからこそ、環境は重要で、人生は複雑で。だからこそ、改良の工夫はやりがいのあることです。私に何が出来るのか未だわかりませんが、味わい深く暮らしていくために、建築に関わる仕事に就きたいと思っています。

あの丘へ登ろう

model & work panel



concept

「ねえ～トイレ一緒にいこ？」
「え～？やだよ～だって臭いし、汚いし、暗いから怖いんだもん」
誰もが平等に経験する子供時代。自分にももちろんありました。
そんな子供時代、トイレっていいイメージがありません。
みなさんも似たような経験をお持ちだと思います。
学校・駅・etc・・・どこも暗くてジメジメしたイメージ。
しかも臭い。挙げ句に怖い話の代名詞。
公園のトイレも例外じゃありませんでした。
端っこに配置され、管理もされず落書き去れ放題。
そんなかわいそうな公園トイレを、
むしろ公園のメインとすべく改修します。

comment

藁の皮膜をもった大小いくつもの優しい球体が、丘の上にプログラム化されながら点在している。本作品は快適で楽しいサニタリー空間を提案しているのだが、風景をつくるということとはどんなことかという、もう一つの側面を提案している。白いキューブ型建築物が街を覆いはじめ、そんな街並みに一石を投じているのではないだろうか。一つ一つの建築が人の心を和ませる造形力そしてリアリティが高い提案が評価された。

(担当教員：濱田 修)

Tadashi Mizutani

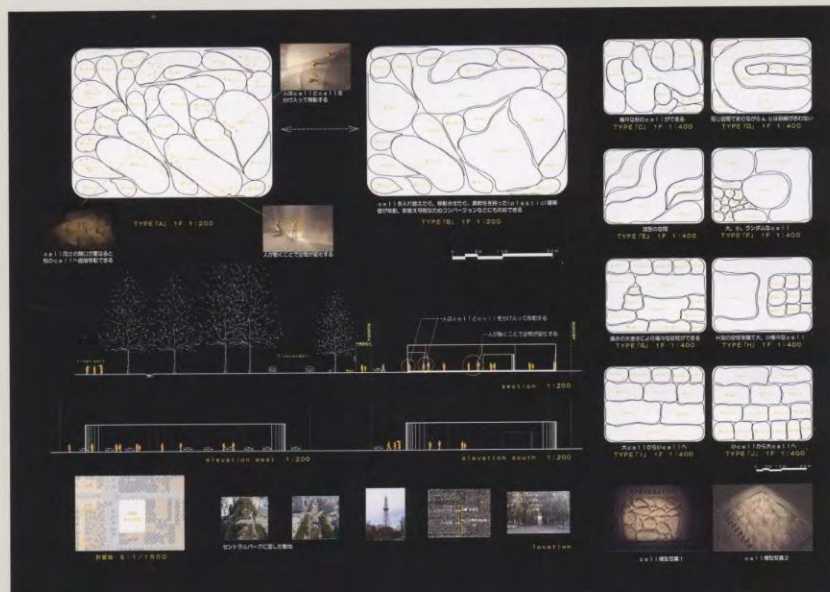
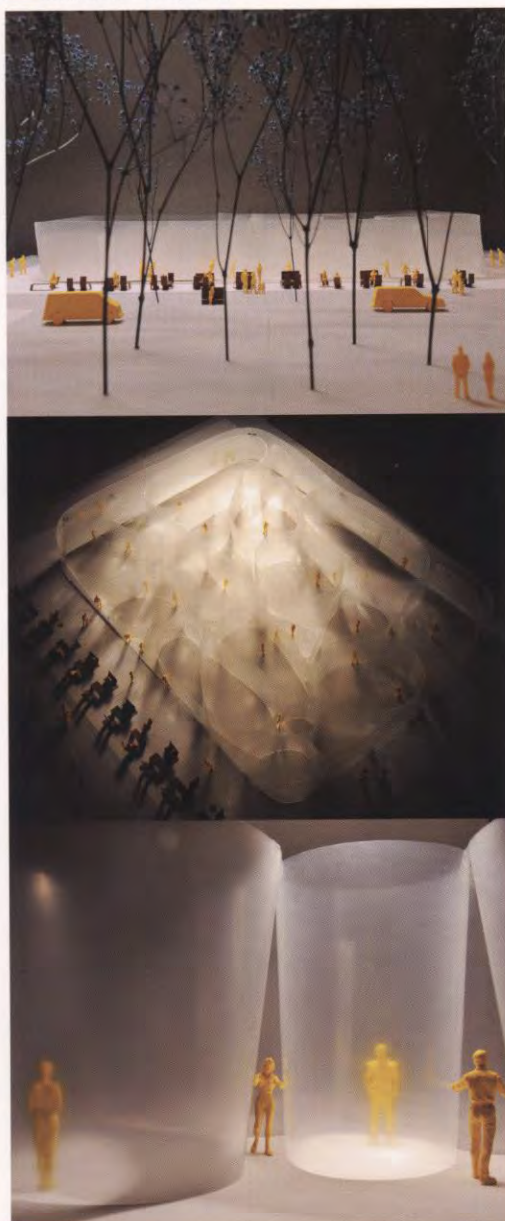
水谷 匡

岡山県在住



自宅を依頼する際、ある建築士の方とお話しました。
自分がお金を支払うにも関わらず、「ありがたい気持ち」
になったことを今でも鮮明に記憶しています。
「誰かに喜んでもらえる仕事」ができるよう、今度は
建築士の試験を目指します。

model & work panel



concept

プラスチックの可能性を活かした建築

わが国でプラスチックが本格的に工業化され今日まで 50 年ほどしか経っていない。しかし私たちは数え切れないほどのプラスチック製品に囲まれ生活している。それは、軽く強靱、優れた可塑性、自由なデザイン、やわらかい、熱伝導度が低い、扱いやすい、などのすぐれた特徴をっており、有用な材料であることがその理由ではないだろうか。このようなプラスチックならではの特性を建築に利用することが、新しいプラスチックの利用価値へと繋がり、また建築の新たな可能性を生み出す。

comment

既存の建築材料が持つ歴史やイメージから解き放たれるべく、彼女はプラスチックを研究の1つのテーマに据えてきた。当初は素材の持つ特性や意味性よりも自分に内在する世界が表出しがちだったが、研究の最終盤になって、プラスチックでしかできない新たな空間性を獲得するに至った。建築の内部空間が柔らかな皮膜=プラスチックにより変化する様はまさに「刺激を与える建築」となり、そこで過ごす人々の意思や動きが直接的に空間を変化させる今までにない建築の姿を見せてくれるのだろう。

(担当教員: 丹羽 哲矢)

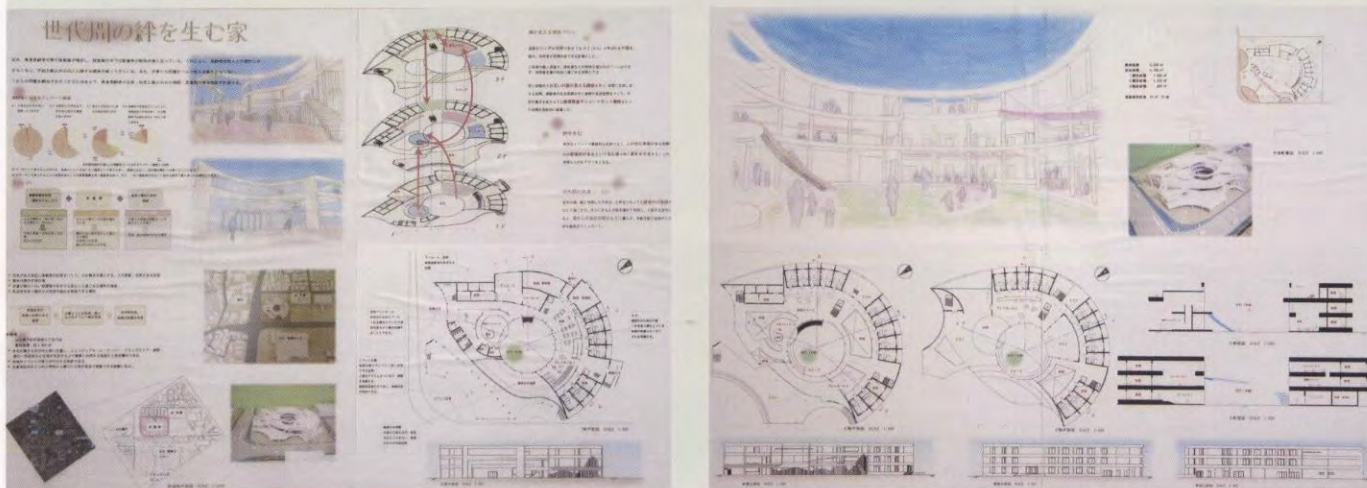
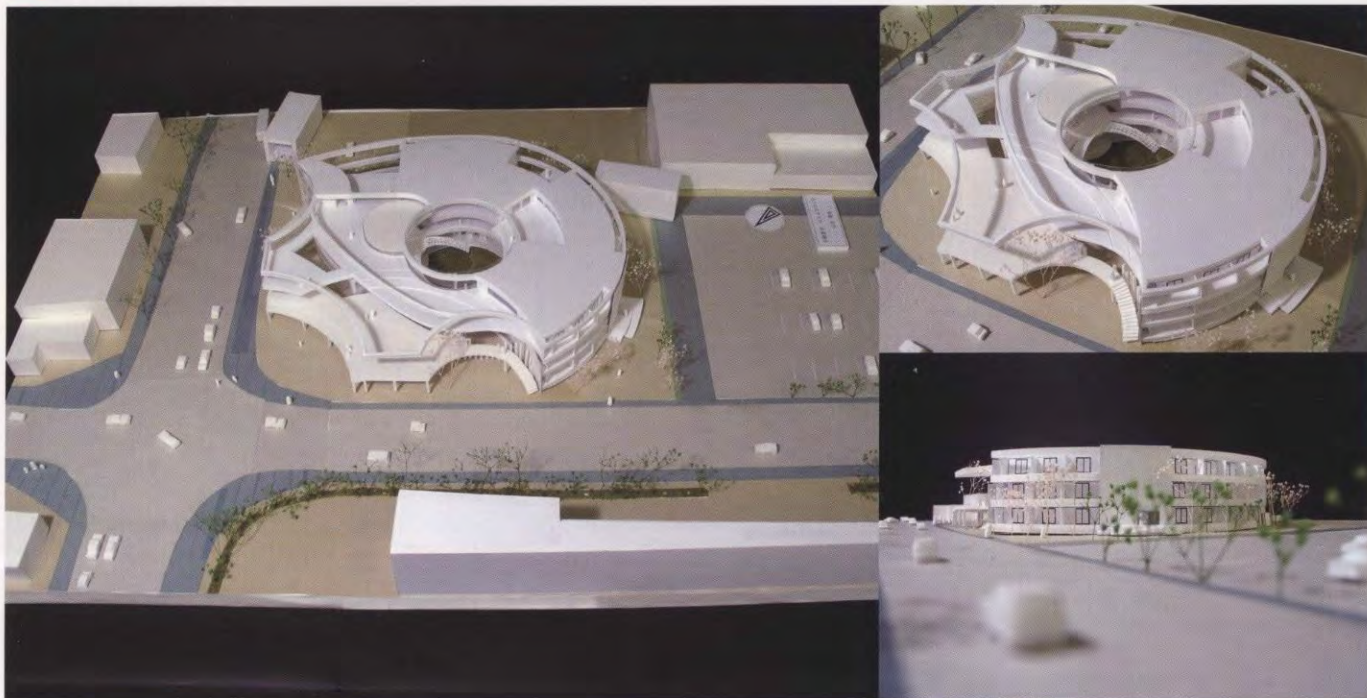
Hiroko Yamada

山田 浩子
愛知県在住

建築設計事務所に勤務していましたが、もっと建築の勉強をしたいという思いから入学しました。大学では建築工学を学べればと思っていましたが建築造形を学べたことが大変良かったです。今までは建築観もなかったのですがスクーリングで先生方の講義を受け、友人と建築を語るうちに自身の建築観ができ、建築がどんどん好きになりました。今後は大学で学んだ造形力を活かして仕事の幅を広げていければと考えております。

世代間の絆を生む家

model & work panel



concept

近年、単身高齢者世帯や核家族が増加し、核家族の中では就業者の割合が高くなっている。これにより、高齢者は他人との関わりが少なくなり、子供も親以外の大人と接する機会が減ってきている。また、子育ての問題を一人で抱える親も少なくない。

これらの問題を解決するきっかけとなるよう、単身高齢者の住居・幼児と親のための設・児童館の複合施設を計画する。

活気がある地区に高齢者の住居をつくり、人の気配・活気がある人の集まる施設とする。お互いの顔の見える関係を作り、自然に交流し合える空間。イベントを通じた交流でなく、人の住む気配がある空間に自分の居場所があるという安心感や同じ景色を共有することが、利用者たちのむすびつきとなる。

comment

高齢者施設では、とにかく自然の多いとか空気がきれいなどの環境が求められがちだが、今後の高齢者像を考えると必ずしもそのような環境だけが相応しいわけではない。彼女の研究では、その立地として街で一番人が集まる場所を選定し、そこに幼児／児童／高齢者がお互いを意識しつつゆるやかにつながる建築を計画した。ここで過ごす人々のみならず街に暮らす人々に交流のあり方を見せる空間性を持つことで、この建築に留まらない影響力を持ち、これら人々の関係が未来へもつながっていく事を想起させるのである。(担当教員：丹羽 哲矢)

Maki Yamada

山田 真希

山口県在住



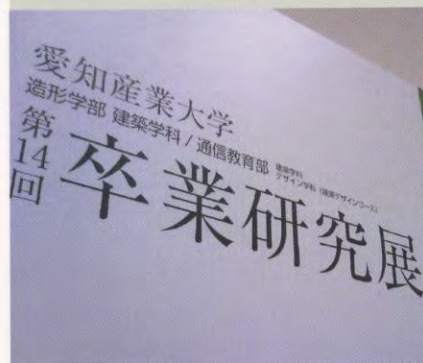
高専を卒業後、土木・機械関係の設計・製図の仕事に携わっていましたが、建築関係の仕事につきたいと思い、建築士の資格取得のために編入学しました。

仕事と家事をしながらスクーリングのために大阪や名古屋に通うのは大変でしたが、勉強を通して仲間や先生に出会い、刺激を受け、支えられて、本当に充実した2年間となりました。2年間で無事卒業できたのは、家族や友人の理解と励ましのおかげだと、本当に感謝しています。

卒業後は目標の一つである建築士の試験に向けて勉強を続ける予定です。

卒業研究展の記録

愛知産業大学 主催 展覧会



名古屋展

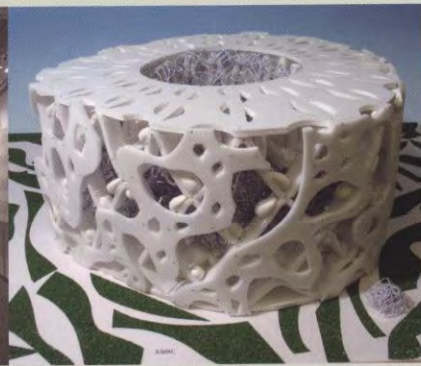
会場	愛知県美術館 ギャラリーG室 (愛知県芸術文化センター 6階) 〒461-8525 名古屋市東区東桜一丁目13番2号
会期	2009年3月4日(水)~3月8日(日)
時間	10:00~18:00 ※6日(金)は20:00まで(入館は閉館30分前まで)
内容	通学部建築学科と合同開催。通信教育部からは建築デザインコースおよび建築学科の選出作品17点
入場料	無 料



東京展

会場	建築会館 ギャラリー(日本建築学会) 〒108-8414 東京都港区芝五丁目26番20号
会期	2009年3月27日(金)~3月29日(日)
時間	10:00~18:00 ※27日(金)は19:30まで(入館は閉館30分前まで)
内容	通信教育部の建築デザインコースおよび建築学科の選出作品17点
入場料	無 料

学外の建築系卒業展覧会



第32回学生設計優秀作品展 — 建築・都市・環境 —

主催	学生設計優秀作品展組織委員会・レモン画翠
会場	明治大学駿河台校舎 アカデミーコモン2F 〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台一丁目1番
会期	2009年6月9日(火)~6月12日(金)
時間	10:00~20:00 ※最終日は17:00まで
内容	55校92学科参加予定 本校からは日比野圭祐さんの作品(p.6~7)を出展 ※写真は昨年の会場の様子
入場料	無 料



第50回全国大学・高専卒業設計展示会

主催	日本建築学会・各支部
会場	Aコース18会場、 Bコース18会場の2コースにて全国各地を巡回
会期	Aコース 2009年5月7日~2010年3月8日 Bコース 2009年5月13日~2009年12月10日 (各会場共 3日間程度開催の後、巡回)
時間	各会場毎に異なります
内容	全国大学・高専より179作品展示予定 本校からは荒井由美さんの作品(p.4~5)を出展
入場料	無 料



通信教育による卒業研究の大まかな流れ

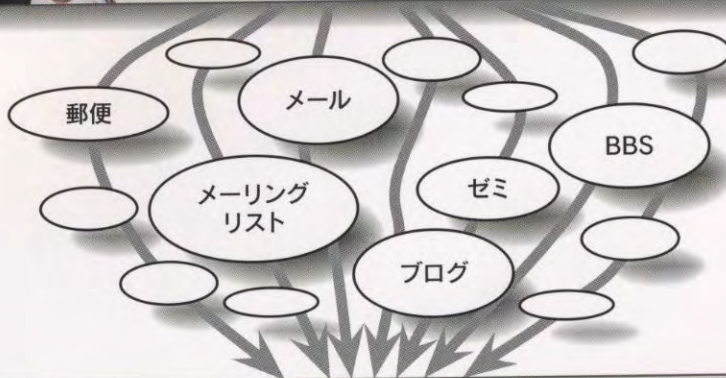
(平成20年度の場合)



卒業研究オリエンテーション

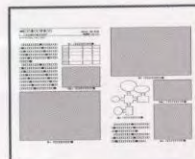
スクーリング

- ・名古屋会場もしくは東京会場にて1日受講
- ・全体説明および担当教員発表
- ・担当教員別に研究方針説明



様々なコミュニケーションによって探求を深める

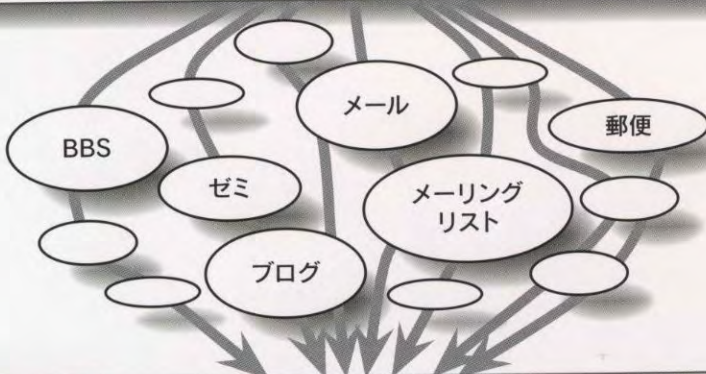
- ・研究テーマ設定
- ・調査・資料収集・分析
- ・問題提起
- ・建築的解決提案
- ・造形研究(スタディ模型など)
- ・その他必要な研究活動



中間報告

通信

- ・レポート形式



様々なコミュニケーションによって作品を深める

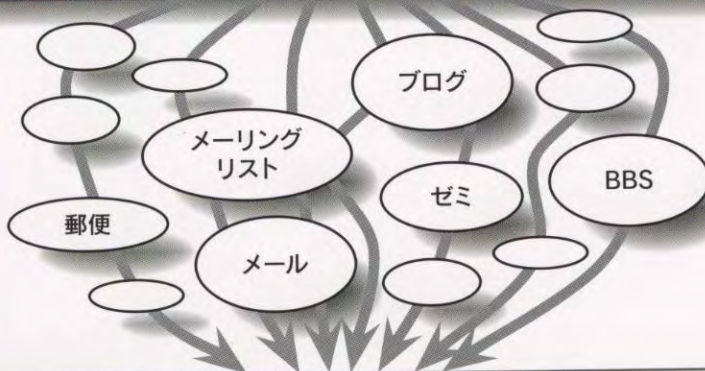
- ・建築計画
- ・図面・論文制作
- ・エスキス模型制作
- ・パネル制作



最終面接審査

スクーリング

- ・名古屋会場もしくは東京会場にて2日間受講
- ・完成したパネルとスタディ模型を用いたプレゼンテーション



様々なコミュニケーションによって完成度を高める

- ・パネルの改良
- ・プレゼンテーション模型



最終作品審査

通信

- ・郵送による作品提出
- ・作品パネル+プレゼンテーション模型または論文+その他必要な提出物

合否判定および選出作品決定

※詳細な事務手続等は記載しておりません



AICHI SANGYO UNIVERSITY

Dept. of Architecture, School of Distance Learning

2008 Selected Architectural Designs of ASU

Imaginary